



# ひまわり



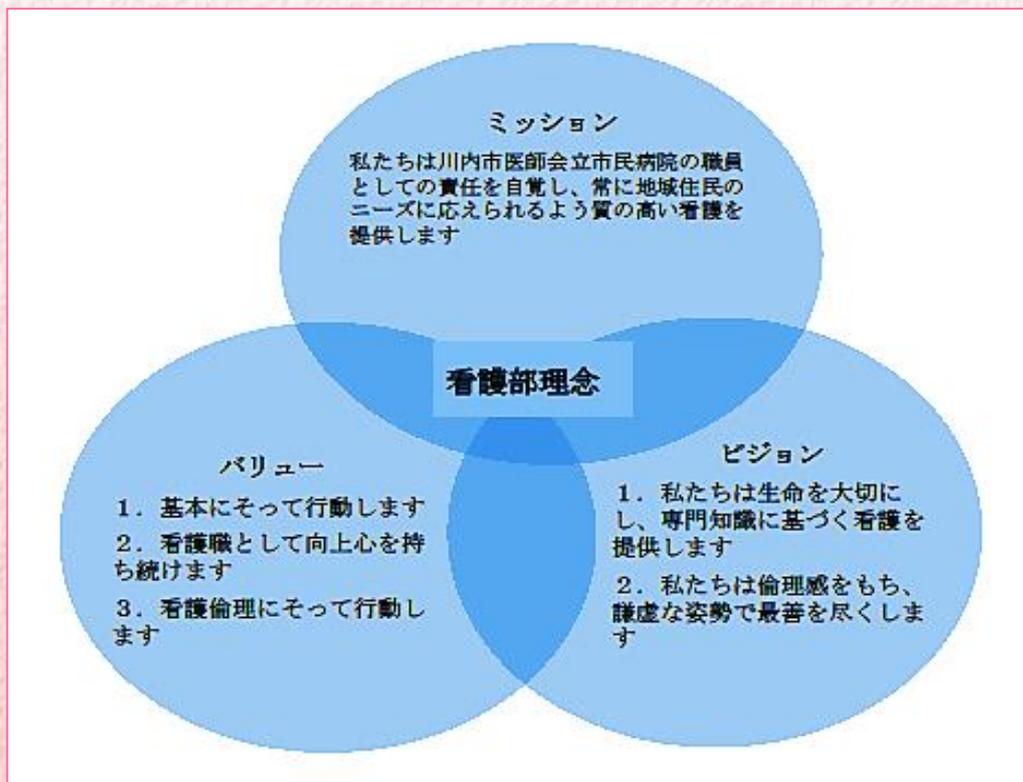
## 明けましておめでとうございます



昨年はインフルエンザのアウトブレイクから始まり、病院機能評価受審に向け、皆様方のご協力と努力の賜で、大局を乗り切ることができました。感謝申し上げます。

今年、「己亥（つちのとい）」で60年に一度の年です。皇太子様と美智子様のご成婚されたのが1959年。今から60年前。そしてその60年後天皇が退位され新時代の幕開けの年です。

看護部では、昨年から師長会で検討を重ねてきたことを形に表す年でもあります。看護部の理念から議論は開始されました。31年4月から変更します。少し早いですが、お披露目します。



「ミッション」…（使命・目的）

「ビジョン」…（ミッションが実現した姿）

「バリュー」…価値・価値判断（ミッションやビジョンよりも理解しやすい具体的な内容）

以上のように、理念が変わります。

多様化・不確実性の時代を皆さまの知恵を結集し、患者さまに「ここにきてよかった」と思えるような看護を提供できるように職場環境を整えていく所存です。

本年もよろしくお祈りします。

看護部長 久々湊 智予





## 新人看護師基礎研修

### 模擬患者（SP）研修に参加して 12/4開催

#### 3階東病棟 飛鷹

新人看護師基礎研修「SP研修」に参加して、皆の前で患者との関わりやコミュニケーションを取るのには緊張しましたが、普段の患者との接し方や話し方など、客観的な意見が聞けたので良かったと思います。また、他の新人看護師が行っている時は、自分とは違う患者との関わり方や姿勢、沈黙の使い方などを学ぶ事ができました。患者との日々の関わりの中で、受容・共感する事、目線を合わせてコミュニケーションを行う事や適度な沈黙も必要であると、改めて学ぶ事ができました。今回の研修で学んだ事をこれから活かしていけるようにしていきたいと思っています。



#### 4階西病棟 田島

SP研修を受けて、第三者から見た自分の姿を知ることで、自分では気づかず無意識に行っていることが、見る人によっては不愉快に感じたりするのだと思いました。また、患者と看護師間の信頼関係を築いていく中でも、立ち振る舞いや態度、表情や言葉遣いなどが大切になってくると改めて感じました。他看護師の模擬患者との接し方を見ているだけでも、自分に足りない所を見つけることが出来、今後、この学びを実際に活かしていきたいと思いました。

## 「文献検索」に参加して

講師：地域連携室 今村 千佳子

包括ケア病棟 奥平



文献検索とは、研究をする上で自分が知りたい内容や明確にした事柄について、どのような研究がされているのかをテーマと関連している参考書や図書等から探し出す事です。私が看護していく中で、深く知りたい事や明確にしたい事柄を言及するためにもあらゆる「検索エンジン」を利用して、答えを導き出し現場で活用していきたいと思っています。



## ラダーⅠ「多職種連携」part① 11/9開催

講師：地域連携室副主任 中菌 陽介

#### 回復リハビリ病棟 川畑



回復リハビリ病棟では、退院支援が重要課題となっています。患者や家族に安心して退院していただくためには、MSW・セラピスト・薬剤師・栄養士などと情報を共有し、調整を行なっていく必要があります。高齢の患者では自宅退院を不安に思う方も多く、介護保険での住宅改修が必要になる場合は、退院に間に合うように早期から介入していく事が重要と学ぶ事ができました。これからも、多職種と連携して円滑な退院支援が出来るように、情報共有をして介入していきたいと思っています。

## ラダーⅠ「多職種連携」part② 11/13開催

-院外講師-

#### 4階西病棟 土田

11/13に多職種連携について講義を受けました。「病院と連携する中で、入院中の本人・家族への説明、指導がなされていないことがある。」との情報をいただき、私も患者を受け持たせて頂く中で、退院がゴールのように思うことがありました。患者の目線になり、退院後の生活の不安に対し、退院支援の必要性が早期からあることを学びました。

今回の研修後、患者様のニーズに応え、退院後の生活の不安が最小限になるように努めています。



## ラダーⅠ（2年目）ポスター掲示

教育委員 外来副師長 栗原

今年度ラダーⅠ（2年目）の教育担当をさせていただきました。目標は「地域における自施設の機能を整理し患者の生活上のニーズを整理できる。」テーマは、仲間と一緒に、患者の生活・環境の課題に取り組む～ポスター掲示です。

5月に第1回目の研修（講義）を行い、2年目の看護師自ら課題を見つけ、同部署内の仲間との取り組みや1年間活動していったことをポスター掲示しました。10日間の掲示にいたりしましたが、見て頂けたでしょうか。2年目らしい視点で、課題に取り組んだ成果がポスターにまとめられたと思います。

## ラダーⅠ「2年目必修課題：ポスター発表」を終えて

今回2年目研修のポスター作成で、「術後訪問実施内容の統一化に向けて」取り組みを行いました。手術室スタッフの協力を得て、術後訪問に対するアンケートを実施し、現在の術後訪問に対するスタッフの認識や術後訪問の必要性について、再確認することができました。

また、ポスター作成を通して、術後訪問についての課題も見つかり、引き続き術後訪問について学習し、今後の手術看護につなげていけるようにしていきたいと思います。

手術室 川添



## ラダーⅠ（2年目）ケースレポート発表を終えて

今回、肺癌患者との関わりを振り返る中で、患者の感じている苦痛はとても複雑で、身体的な苦痛のみで捉えるのではなく、精神的苦痛、社会的苦痛、そして、スピリチュアルペインという全人的に患者を見る事が大切であると改めて学ぶ事ができました。日々の業務は忙しく、患者とゆっくりと関わる事も出来ず、患者の事を完全に理解する事は難しいですが、患者を様々な側面から理解することができるかは、私たちの意識、行動次第であり、患者を全人的に理解しケアへつなげていく必要があります。また、看護計画に関しても、日々の見直し修正を行い、状況に応じた援助ができるように心掛けていきたいと思っています。

4階東病棟 田代

## ラダーⅡ「実践」- 暴言、暴力、クレーム対応 (10/23)

講師：総務コンシェル課 課長 谷口 誠道

外来 奥



外来で働くようになり、患者さんが待ち時間を長く感じる事は理解していました。実際に、外来の受付に怒鳴り込んでくる患者さんも中にはいらっしゃって、話を聞こうと別室に案内しても拒否する方もいらっしゃいます。まずは、話を聞く事からが基本だと学んだので、一通り話を聞くことで、患者さんは少し落ち着きつづかれます。

今回の研修でも、まずは相手の話に耳を傾けて、状況を判断する、そして、相手がどうして欲しいのかを探る事が大事だと学びました。相手の言われる事を否定するのではなく、共感し、内容によっては謝罪をきちんと行い、具体的な対処をすることで、患者も理解し納得してくださいます。これからも相手の気持ちを考えて対応していきたいと思っています。



## ラダーⅢ「看護管理」-人事育成- (10/22)

講師：師長室付師長 久留須 加寿美

手術室 税所

今回、人材育成について講義を受けました。人材育成と経営には大きな関係があり、少ない人数で人件費がかからないほうが経営が上手くいくというわけではありません。人材が多いほど病院の経営は安定する傾向にあり、人材確保が病院経営に直結すると言われていたそうです。その人材を有効に活用するためにはリーダーシップが大切です。リーダーシップにもいくつかの理論があると共に、コミュニケーションにもいくつかのタイプがあります。その人材に合った関わり方を見極めて、最大限に能力を発揮出来るように関わっていくことが大切です。日々の業務の中で、患者だけに気を配るのではなく、スタッフ間でも良い関係を築き、良い看護の提供に繋げていきたいと思っています。

## 看護補助者研修「移動のお世話と実践 (11/14)

講師：総合リハビリテーション部長 長嶺 英博



4階西病棟 上堀

今回の研修を受け、患者さんの移乗の意義・目的の確認・方法を学ぶ事ができました。長嶺部長の指導での実践の中、車椅子移動の際は、必ず健側の方に付いて健側の方を利用しての移動方法、患者さんのベッドからの起き上がり介助方法など学んだ事を実践し、安全で安心できるような介助を行っていききたいと思います。



### 認知症対応向上研修

3階東病棟副師長 三宅

平成30年12月13～15日の3日間、認知症対応力向上研修に参加し、認知症の基本知識・対応力向上・マネジメントについて学ぶことができました。認知症ごとの特徴や中核症状と行動・心理症状（BPSD）、治療薬、急性期病院における認知症の治療やケア、認知症とせん妄の違いなどケアについて知識を得ることで、自分たちが行っている看護について考えさせられる内容でした。認知症を理解し、症状の悪化予防、身体疾患の治療を円滑に受けられるよう環境調整やコミュニケーション方法をアセスメントし、ADL・QOLが低下している患者に対し、ケア・看護介入を行い、改善を図ることの重要性を認識しました。患者の尊厳を考え、身体抑制を行わない取り組みや患者の意思を尊重し退院支援を行うために、認知症への理解や取り組みをスタッフが理解し、同等のケアができるようになる事が求められています。

### 医療安全管理者養成研修

手術室師長 宝満

7月から医療安全管理者養成研修eラーニングを33講義・40時間以上視聴し、集合研修に臨みました。研修では主に、RCA分析手法について再認識のため講義があり、インシデントレポートを活かす事例分析としてグループワークをしました。慣れない討議だったため、RCAからPDCAサイクルにつなげるまで難渋しました。職場の中で起こるインシデントやアクシデントをRCA手法を使用し分析することにより、問題の根本原因を明確にすることができ、同じミスを繰り返さないための良い対策を見つけることができると感じました。この方法が、職場の中で取り入れられていくことで、安全安心な医療の提供や、よりよい業務改善につながられるようにしたいと思います。



### ミニナラティブ



手術室 迫

変形性股関節症を患い、手術を控えていたAさんの担当になりました。手術前日、病室へ挨拶に行きました。「よろしくね。良い先生がいるって聞いて手術してもらおうと思ったの。」とAさんは笑顔で話してくれました。私は思わず「痛みがあると辛いですよ。」と声を掛けました。私との会話中も、Aさんは落ち着いていて、終始笑顔でした。

手術も無事に終わり、数日後、Aさんの病室へ伺いました。歩行器を使って歩いているAさんを目にし、「もう歩けるんですね、痛みは治まりましたか？」と声を掛けました。するとAさんは、「痛みは最初から無かったのよ。手術をして欲しかったのは、曲がった股関節を治して欲しかったから。今は真っ直ぐに立ってられるし、本当に嬉しい。」と話してくださいました。私はその時、疾患名だけで症状を決めつけていたことに恥ずかしい気持ちになりました。患者さんによって、手術をする目的は違います。今回のことを通して、患者さんの気持ちに寄り添った関わりを忘れずにいたいと感じました。

### マイブーム

3階東病棟 久玉



私は3歳の娘と1歳の息子がいます。娘は保育園でクッキング教室が始まり、今、料理やお菓子作りにハマっています。育児休暇中には娘が、「今日はウインナーパンを作りたい。今日はクッキーを作りたい」と娘の作りたいものを一緒に作っていました。料理を一緒に作るようになり、娘の食わず嫌いも少しずつ減ってきているので嬉しいです。12月から仕事復帰し、平日はなかなかゆっくと料理を作る時間が無いので、休みの日などに一緒に作っていきたいと思います。娘が大きくなって、たくさんの料理を作ってくれるのが楽しみです。



### 編集後記

2019年の干支は、「猪突猛進」という言葉で表される亥(いのしし)です。目標に向かって情熱的に、猛進する人には強力な力を貸し、風水でも「無病息災」を象徴する動物だそうです。

インフルエンザも流行の兆し！！各自、「感染予防に努めましょう。

(久保)